

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200856	事業の開始年月日	平成15年10月1日	
		指定年月日	平成15年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人 介護支援協会			
事業所名	グループホーム三ツ沢南の丘			
所在地	221-0854 ) 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢南町13-3			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	レ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月15日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1470200856&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1470200856&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療体制の確立、24時間主治医意図の連携を保持して万一の場合に備えている。火災、防災について町内会、消防署と連携をして3者で覚書に調印し協力体制を作りました。
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ケ'双ファースト 3階		
訪問調査日	平成22年11月18日	評価機関 評価決定日	平成23年1月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、横浜市営地下鉄三ツ沢上町又は三ツ沢下町駅から徒歩約7分の住宅地の中にあり、同一法人経営の二つの隣合ったグループホームのひとつです。近隣の道路の平坦部分を散歩しますが、緩やかな坂を下りますと散歩道や商店があり、足の丈夫な利用者には格好の場所となっています。

#### 《優れている点》

#### 1. 医療連携体制

看護職員もあり、24時間の連携体制となっています。医療対応の充実を目標に、緊急時に駆けつけるオンコール体制、往診時情報の記録、救急搬送の要請方法等、薬の管理や薬剤師の健康指導など細かな対応が徹底されています。毎月の家族への手紙の中に、往診や医療の事をこと細かく説明され、家族と職員が情報を共有化しています。

#### 2. 活気あふれるホームの生活

利用者は全員笑顔で良くしゃべり、毎日の散歩やお口の体操などで元気となり、日常活動への参加者も多く、活気が溢れた生活をしています。家族は多少偏りますが、繁茂に訪問されています。職員は明るく、人付き合いが好きで仲良く、研修へも積極的に参加しており、運営には自信を持っています。「一人ひとりの自主性や残存能力に目を向けて」の目標の成果と考えます。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム三ツ沢南の丘
ユニット名	わかば

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに三つの理念を掲げてある。理念に基づきサービスを実施している。	理念の実践として、目標達成計画では医療体制の充実に取り組みました。主治医と看護師さらに薬剤師との連携、家族への手紙に往診医療情報を入れ、職員・家族が共用しています。緊急時対応として、職員の人材育成も行われています。	
2	2	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長や、民生委員と連絡を取り合い、お祭りや小学校の運動会に参加したり、地域包括センターのお祭りにも参加している。	地域の行事には積極的に参加しております。町内の夏祭りでは、おみこしがホームを訪問してくれます。利用者の刺繍作品が地域包括支援センターで展示されました。地域にホームが知られるようになり、近所の人からの相談も出てきています。	
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人からの相談を受けることはあるが 地域の人に向かって 具体的に発信するまでにはいたっていない。		
4	3	<b>運営推進会議を活かした取組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していないのでよくわからない。	隣接の同一法人事業所と一緒に年3回開催しています。地域の行事情報の収集や火災避難訓練の情報交換等を行っています。家族は別事業所の家族同士が話し合え喜んでいきます。町内会からは行事用テントを貸していただけの提案もありました。	おおむね2カ月に1回の単独開催、自己評価・外部評価の報告、目標達成計画の進捗のモニタリングを得ながら、地域との協力関係を強化していくことも期待されます。
5	4	<b>市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者に生活保護の方が多いため 市町村の担当者と連絡を取り 質の向上に取り組んでいる。	スプリンクラーの設置について市の方針とのすり合わせ、また避難訓練用マニュアル等を頂いています。消防所の協力を得て、近隣との応援協力に関する覚書を締結しました。各種の研修には参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件などにより安全のため玄関の施錠はしているが、身体拘束はしていない。	身体のほか心理的となる言葉の拘束をしていません。眠気のある人を無理におこさない等の具体行動まで取り決めています。入り口のドアは開放し、フロアと玄関のドアは鍵をかけていますが、出かけた時はいつでも開けれるようにしています。	
7		<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について学ぶ機会はなかなかないが事業所内での虐待行為はないように防止に努めている。		
8		<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について学ぶチャンスは職員にはない。		
9		<b>契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の時あるいはその後の改定の時等施設長管理者が利用者の家族に説明を行っている。		
10	6	<b>運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の意見等耳を傾け管理者施設長に報告している。	利用者の意思や思いが伝わる雰囲気づくりと活かす工夫により、不平不満は出ていません。毎月「家族への手紙」を送り、日中や夜間の様子、健康関係など細かく報告され、家族と共有しています。緊急時は家族と直接話し合うようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のフロア会議の中で聞くこともあるが特に機会は設けてない。	職員の意見は日頃からの風通しの良さでトップまで伝わっています。勤務の調整はもとより、入居者の面接時にはフロア長が立ち会い、共有化しています。近隣の事業所の職員同士が知り合うように、合同の敬老会や反省会も行われています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき一人一人がやりがいをもって働くように待遇改善の制度を利用して整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での交換研修も行い外部の研修も呼びかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	特に取り組んでいない。外部研修で情報交換したり他の施設のお話を伺った時には伝える。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長や管理者、ケアマネがご家族の気持ちをよく伺いよい関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設庁や管理者がご家族の気持ちをよく伺いよい関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後の面談で本人、家族が今一番必要としていることを伺い支援するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をして喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回お出しする「家族への手紙」で利用者の様子をお伝えし面会時にお話を伺うようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には対応しているが関係が途切れないような支援までは出来ていない。	利用者は家族を自室に呼んだり、時には外出もします。手紙のやりとり、馴染みの場所への散歩や買い物も楽しみにしています。偶数月には美容ボランティアが訪れます。居室担当者は途切れない関係を継続できるように見守っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩やお手伝いを一緒にすることにより関わりが持てるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は把握出来ていない。他の施設や病院に移る方が多いので関係が途絶えてしまう事がある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を聞いて出来る範囲でケアプランをたてている。	各入居者の思いや意向は日常の活動を通して把握し、フロア会議等で共有化しています。日頃から職員同士の情報交換も行われています。新入の利用者には、思いを遂げられるよう色々の試みが行われ、意向を確認して実現するようにしています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを振り返りながら把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック時に本人の様子を観察している。又一日の流れの中でそれぞれの変化を見落とすことなくスタッフが心をくばり情報の変化に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月一日のフロア会議で一人一人のカンファレンスをしそれに基づいて介護計画を作成している。</p>	<p>利用者ごとの現状を把握したADL早見表に、本人と家族の目標を加え、アセスメント総括表を作成しています。月1回のフロア会議で一人ひとりのカンファレンスを行い、サービス計画書に反映させています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日ケース記録に記入しスタッフ内で情報を共有するために申し送りをし申し送りノートもつくり全員の閲覧している。又問題のあるケースについては気づきノート等をつくっている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の家族へ毎月状況報告をしている。他のホームにない医療体制を組んでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>散歩時に地域の人との挨拶を交わすなどホームへの理解が進んでいる。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月の二回の往診があり必要なら電話にても指示をいただいている。又他にも専門医の受診も必要な時には行っている。</p>	<p>訪問医は内科の専門で、家族の了解を得て主治医としています。看護職員もおり、24時間の連携体制を組んでいます。バイタル表で細かな現状把握、ドクター往診状況、医療往診情報、投薬対応管理等が細かく徹底されています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は平日在中しているが土曜日日曜日夜間はドクターコールをして対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時には必ず本人の情報を病院側に提出し適切な情報が受けられるようにしている又早期退院が出来るよう病院と連絡を取りあっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に特養の申込を行い重度化した場合は主治医と相談の上入院で対応している。看取りについては医師と相談の上行っている。	看取りの経験はなく、医師と相談し病院に搬送することで家族の了解を得ています。緊急時に備えるため、連絡網や具体的な救急車の要請方法等が徹底されています。職員を緊急呼び出しするオンコール体制も敷かれています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練はしているが定期的には行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と自治会、施設との間で災害時の協力体制の覚書を取り交わし、災害時の食料や水の備蓄を行っている。	訓練は年2回行っており、次回は近所の人も参加した夜間訓練を計画しています。今年消防応援協力に関する覚書を締結し、事業所への応援と町会で災害発生時に、相互応援を行うこととしました。非常食は隣接事業所の地下に備蓄しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けはしていない。	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、自己決定しやすい言葉かけや対応による細心の注意を払っています。書類は職員室に保管しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やリネン交換は曜日時間に制約があるが出来る限り一人一人のペースに合わせてご希望に添うように声掛けしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度美容ボランティアの方に来ていただき身だしなみ、お洒落には気をかけるように声掛けをしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はスタッフが行うが準備、片付けは一緒に行っている	利用者は食事の準備、盛り付け、かたづけの手伝いを行っています。お茶の準備で助け合いも行われています。食事時はテレビを消し、音楽が流れています。早く食べた人も全員が食べ終わるまで静かに待っています。外食も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養管理士の作った献立に基づきバランスの取れた食事をしている。一人一人についてはそれぞれの状態に合わせて、刻み食やおかゆなど毎日食事量、水分量のチェックをしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを促している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄のパターンにあわせてトイレの声掛けをしている。出来るだけトイレで排泄できるように支援している。</p>	<p>自立している人が多いですが、できるだけトイレで排泄できるように、排泄のパターンとその日の体調を把握して声掛け誘導して支援しています。このため職員はいつも利用者に身近な存在となるように努めています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝の体操、水分摂取、食事、薬等により排便コントロールをし改善に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現実には難しいが出来るだけ本人が気持ちよく入浴を楽しめるように努めている。</p>	<p>車椅子や歩行器の利用者も含め平均して1週間に2～3回入浴しています。スタッフは、入浴が嫌いな利用者には入浴後の快適な気分を思いださせるような工夫をして入浴を促しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。各自の状態に合わせ昼寝をされてる方もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に処方箋が入っているが、内容の理解までは達していない。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人に合わせて散歩、塗り絵、新聞、テレビ、歌、お手伝い等それぞれの楽しみを持つように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等には出かけられるが希望に添ってすぐに出かけることは難しい。花見に行ったり外食で回転寿司に出かけたりもしている。	利用者は、天気の良い日など毎日1回は戸外を散歩しています。車椅子や歩行器を使う利用者にはできるだけ外気に接するように支援をしています。散歩の途中で買物ができることも利用者の楽しみとなっています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今の所お金については事務所の方で預かりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが出来る方は行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やトイレに目印をつけている。壁には各自の作った季節毎の作品を飾っている。	居間、食堂では、食事以外にテレビを見て寛いだり、数人でトランプをして遊べるようにソファが置かれています。壁には利用者が趣味やレクリエーションで作った作品や行事の写真が飾られており、家庭にいるような雰囲気があります。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が使い易く工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように工夫している。それぞれ好きな配置を作っている。又本人の愛用品を置いている。	備付のエアコン、クローゼット以外は利用者と家族の希望どおり愛用の物を好きな位置に置いています。ベッドには転倒防止の柵が付けてあったり、窓からの強い陽射しを防ぐカーテンやよしずがあり、安心して居室での生活を楽しんでいます。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全のため手摺が設置されている。脱衣所にも手摺をつけている。		

事業所名	グループホーム三ツ沢南の丘
ユニット名	あおば

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに掲げてあるので 各自で読むようにしている。利用者の方と一緒に読むこともこともある。「地域の健康の向上に励む」とあるが具体的にどう生かしていけるのかはわからない。		
2	2	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩のときなどに積極的に挨拶するように心掛けている。また自治会長、民生委員、地域包括センターなどとも連絡を取り合い、お祭り、運動会、ケアプラザ祭りなどに参加をして交流の機会を設けている。		
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時には 御近所の方からの相談を受けることもあるが まだ 具体的に情報を発信するまでに至っていない。		
4	3	<b>運営推進会議を活かした取組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には御家族、自治会長、地域包括センターの方の参加をいただき、グループホームの状況などを説明し、それぞれの方の質問、意見をうかがっている。		
5	4	<b>市町村との連携</b> 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは絶えず連絡を取り合いながら サービス内容などの疑問点などをおしえていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地条件などがあり、やもうえず 内玄関には施錠している。 場合によってはどうしても拘束が必要な時には家族の了解を得て記録に理由、時間を明記しておく。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為がないように注意して日々取り組んでいる。言葉一言一言でもスタッフ間で 注意するように心掛けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度があることは知っているが 細かいところまで理解ができていない。 まだ 当 施設内では行っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に 十分な説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見を書く欄を作り また意見箱も置いてあるが 特別に機会を設けることはしていない。面会時には「何か要望はありませんか」とお聞きして 話を聞く時を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体としては特別に行っていない。 個々に話してくる意見、提案は出来るだけ聞くように心掛けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休、研修、資格取得を勧め 待遇改善の制度を使い 少しずつ整備を整えている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年の5月より 施設内の交換研修を行っている。 外部の研修も 必要と思はれるものについては回覧して参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者については 他の施設との交流会に出席し 情報の交換をしている。 一般介護職については外部研修以外なかなか取り組めていない。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた後、事前面接を行っている。 意志の疎通ができる方に対しては 御自分の意見、要望を出来る限り伺うように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人同様に 御家族の不安は十分承知しているので お話の出来る機会は出来る限り多くつくるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの受け入れが可能かどうかの見極めが 大変難しいケースもあるので そのような場合は 別のサービスも視野に入れて 御家族とも相談しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活史から常に学ばせていただいて 気づかされる事も沢山あります。一人ひとりの様子を記録に残しつつねに把握できるようにしている。そして お互いに信頼関係にあるように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回 日頃の様子をお手紙でお知らせし、何か変化があったときには 電話などで御家族にお知らせして来ていただくなどして 御家族と一緒に御本人を支えていくよう努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との外出は時々行っている。電話があったときには自室でゆっくりとお話をしていたり、なじみの場所の話題などをするように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性の利用者様は交流がしやすいが男性の方はひとりで過ごされることが多いため、常にスタッフが声掛けをするようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方が他の病院、施設などへの転居のため契約終了時で関係がとぎれてしまうことがおおい。ただし中には亡くなられたあとでも年賀状をくださる家族もいる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めているが もっと努力が必要である。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	提供していただいた情報についてはスタッフ間で共有し、日常会話などで知りえた情報についても 口頭の連絡だけでなく 記録に残すようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子は 毎日の申し送りで周知されているが 職員の主観的なものが入りすぎないように 毎月のフロア会議でも様子の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回 スタッフ会議を行い 情報交換、現在必要とされているケア等の話し合いがされているが 即介護計画への反映まで至っていない時がある。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録に記入し、毎日の申し送りで 情報を共有している。しかし もう少し 記録の意義、重要性をしっかりと把握して記入に心がける必要がある。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>「多機能性をいかした」という意味が理解できないが その時の状況に応じて できる限りの対応を心がけている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会、地域包括センター、消防署、小学校などの協力をいただいている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診については 施設として決まっているクリニックなので そこで対応している。 今まで定期的に通院している病院があり 必要であれば継続して受診をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回 看護師が在中している。 チームケアの大切さを考えれば それぞれの立場から相談して より一層適切な支援ができるようにしたい。		
32		<b>入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には できるだけ情報を提供して 治療に役立てる様に努めている。		
33	12	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについてはグループホームとして 今のところ困難であることを家族にもご理解いただいておりますが GHにおられる時には出来る限りの支援を 行っている。		
34		<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが 定期的な訓練は行っていない。		
35	13	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、自治会、グループホームとの間で 災害時の協力体制の覚書がH22年7月に取り交わされた。 施設内では もっと定期的な 避難訓練が必要である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けてはいるが より一層努力をしていきたい。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの方に選択肢を与え 御自分で選べるような支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが 現実にはなかなか難しい。 ある程度1日のパターンが決まってしまう その中で わずかな希望を汲みあげていくようになってしまう。 自室内で過ごされる時間は出来るだけ 介入することなく 自分の時間を大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2月に1回 美容ボランティアの方に散髪してもらっている。 女性の方には 時には お化粧をされる方もいる。 特に清潔には心がけている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては管理栄養士の作った宅配業者によって決まっているが出来る方には盛り付け、かたづけ等の手伝いをお願いしている。 また誕生会、季節の行事のときには 希望によりメニューの変更もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量、などについては毎日チェック表に記入してそれぞれの状態を把握している。必要な時には医師とも相談している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後 実施している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事についてはバランスのとれた食事を提供している。食事以外では水分摂取、運動を心がけ 必要な時には医師と相談して それぞれに合った薬を処方してもらう。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>1日のうち入浴時間については午後からと決まっているが 時間内にどなたが入るかは その日の体調状況によりそれぞれに提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に決めておらず それぞれのペースで入床されている。室温の調整などにも配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が理解しているとは言えない。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	すべての人が 張り合いのある生活をしているわけではないが それぞれの役割をもって生活していただけるようにスタッフ間で話し合っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ本位になってしまう時があるが なるべく希望に沿うように心掛けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは十分に理解している。大切がゆえに 物とられ妄想にもつながってしまうため きちんと状況を見極めて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間についてはトイレなどの目印をつけている。また壁などにはその季節に応じた飾りを利用者様と一緒に作り飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分のスペースには限りがあるため一人になる場所までの確保は難しい。居室が個室になっているためそれぞれお互いに訪問してお話をされている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分の居室について不満などを言われることはないが、入居のときに御自身のこだわりのものについては配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の扉、フロアの手すりについての改善を求める。		

## 目標達成計画

作成日：平成23年 2月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		夜間想定火災避難訓練の実施について、火災の発生があった時、夜勤者一人での行動は非常に限られた範囲でしか出来ない、火災警報が鳴っても建物の外には聞き取りにくい、近所に協力を求めるにも時間がかかる。いかに速やかな行動が取れるかが問題です。	火災は夜間に起きる、訓練はスタッフ全員が経験しないと頭での理解と実際の行動と違う事になるので、何回かの訓練を繰り返すことが咄嗟に行動に出るようになって行かなければならない。又、避難しやすいような環境作りをして行きたい。	色々な場所で火災が発生する事を想定して訓練を続けて行きたい。	10ヶ月
2		運営推進会議開催について、2ヶ月に1度の開催については、何かと出席者にご足労を掛けることになっていますが、年間計画の提案を持って参加を呼びかけてゆきたい。	年間計画の作成でご家族、町内会、地域包括センター、提案したい。	今までせっかく会議をするのに皆さんの出席を願っているのだから内容を濃いものになりたいと思っていましたが、議題提案を少なくし時間も少なくして気軽に開催できるようにしたいと思っています。	2ヶ月
3		利用者の入院、退院退去などで空き室がある場合、短期利用共同生活介護に提供してゆくことをしてゆきたい。	入居の効率を上げスタッフの給与に反映してゆきたい。	運営規定の追加条項をして短期の利用者の受け入れを進めて行きます。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。